

教育訓練給付制度を利用して講座の受講をお考えのみなさまへ
～～ 受講する講座を決定される前に、是非お読み下さい ～～

教育訓練給付制度は、みなさまが自発的に、雇用の安定や就職の促進のために、各種の教育訓練施設を利用して行われる職業能力開発について、その経費の一部を雇用保険制度から負担するものです。

教育訓練給付制度指定講座は、こうした趣旨から、各種の資格取得等を目的とし、雇用の安定・就職の促進に役立つ講座が指定されておりますが、その内容は多岐に及んでおり、その中から、みなさま個人個人の適性やニーズにあわせて上手に選定していただくことが、効果的にご利用いただくために必要不可欠です。

教育訓練給付制度は、雇用保険の加入期間が3年以上（ただし、初回利用に限り1年以上）でご利用いただけるものであり、一度ご利用になると、また3年以上の雇用保険の加入期間が必要となります。せっかくの機会を無駄にせず、上手に職業能力の向上を図っていただき、みなさまの職業生涯設計に役立つよう、講座の選定にあたっての留意点等を下記に記載しております。受講する講座を決定する前に、次の3つの質問についてお考えいただき、より効果的な講座の選定をしていただく一助にいただければと思います。また、そもそも自分の適性ややりたいことがはっきりわからないという方は、「○ 自己分析をしてみましょう」を先にご覧下さい。

質問1 なぜ職業能力の向上を図ろうと思ったのでしょうか？

質問2 職業能力の向上を図ろうと思った理由にあわせて受講する講座の内容を考えましょう。

質問3 どの講座を受講するか考えましょう。自分にあった学習形態（通信・通学）、講座レベル（初歩から、中級からなど）などを考えましょう。

また、学習する内容を決定する前に詳しくキャリアコンサルティングを受けてみたい方は、各都道府県にある雇用能力開発機構都道府県センター（<http://www.ehdo.go.jp/loc/1.html>）にご相談下さい。

なお、受講される講座を選定されるにあたり、教育訓練施設やその販売代理店等から勧誘が行われることがあります。中には勧誘方法が強引である等問題があるものがみられることがあります。厚生労働省といたしましては、こうした業者に対しては厳正に対処することとしておりますが、調査中のものや未発覚のものなどがあり得ますので、不適正な勧誘の手口等について情報提供をさせていただきます。講座の選定前に必ずご一読下さい（<http://www.kyufu.javada.or.jp/seido/pdf/kanyuchui.pdf>）。

質問1 なぜ職業能力の向上を図ろうと思ったのでしょうか？

(解説)

職業能力の向上を図るにあたっては、「なぜ？何のために？」をまず考えてみましょう。中には、現在就いている仕事に必要な能力を身につける（初めて経理業務に配属されたので経理について勉強する、会社が合併して外資系になったので外国語を勉強するなど）という方や、将来社内のある部門への異動を希望されていて、そのために必要な資格をとってアピールしたいという方もいらっしゃるでしょうし、また、将来は独立開業したいという方もいらっしゃるでしょう。また、現在お仕事を探検中で、就職に有利な資格を取得しようとお考えの方もおいでではないでしょうか。

当然、社内での業務に関連して勉強される場合はお勤めの会社の業種やご自身の現在されているお仕事の内容にあわせて講座を選択される必要がありますし、逆に、将来独立開業を目指していらっしゃるのであれば、受講する講座の内容が本当に独立開業できるような内容であるのかよく検討することが必要です。その仕事で独立開業されている方のお話を聞くなど、業界について調べてみるとよいでしょう。また、起業に関する相談は、創業サポートセンター (<http://e-support.ehdo.go.jp>) や各都道府県にある雇用・能力開発機構都道府県センター (<http://www.ehdo.go.jp/loc/1.html>) で行っています。

また、現在お仕事を探検中の方で、就職に有利な資格を取得しようとお考えの方であれば、実際に就職に役立つか、という観点から選択する必要があります。教育訓練給付制度指定講座は在職中の方のご利用もあるため、必ずしも外部労働市場から企業に雇用されるための教育訓練ばかりが指定されているわけではないからです。

このように、目的に応じて選択する教育訓練の内容は異なるものです。単に、目標とする資格がなんとなく流行っていてイメージがよく就職できそうと思ったからとか、勧誘があつて仕事に役立ちそうな気がしたからなど、目的があいまいで、自分でよく調べないまま選択してしまうと、あとで結局自分のキャリア形成の役にたたなかったということになりかねません。よく考えて選択してください。

では、どのようなものを選べば、ご自身の目的に役立つのでしょうか。続きをみてみましょう。

質問2 職業能力の向上を図ろうと思った理由にあわせて受講する講座の内容を考えましょう。

(解説)

さて、目的が決まったら、それに向けて必要な講座内容を決めましょう。例えば、現在のお仕事を円滑に実施するためであれば普段の業務上必要性を感じていることについて考えてみてください。上司や社内の人に相談するのも1つの方法でしょう。また、処遇や評価の向上を図るといった目的であれば、例えば社内の社員評価の方法に関する情報を集め、それにあわせて必要な能力開発を図るなどの方法が考えられます。転職や独立開業を目的とされる場合は、どういう分野で働きたいかといった目的をよく考えた上で、労働市場等の情報も集め、希望する分野での就職・独立開業に有利な資格を目指すということになるでしょう。

再就職を目的とする場合は、実際に就職に役立つか、という観点から講座を選択する必要があります。教育訓練給付制度指定講座は在職中の方のご利用もあるため、必ずしも外部労働市場から企業に雇用されるために必要な教育訓練ばかりが指定されているわけではないからです。また、どんなに教育訓練の内容がよくても、お住まいの地域に就職先がなければ目的にかなった教育訓練にはなりません。求職活動に際しては、公共職業安定所（ハローワーク）で地域の求人情報や平均労働条件等の情報を入手したり、職業相談やキャリアコンサルティングを受けていただくことができます。ご自身の就職に係る希望とこれまでの職業経験、地域労働市場の状況等を勘案し、どのようなお仕事を探すのがよいのかをまずご検討の上、過去の経験を生かしてさらに必要な能力の向上を図るのか、新しい分野に挑戦されるのか等を考えて、講座を選定されるとよいでしょう。また、講座を受講される場合、最終的に資格を取得した方が納得のいく再就職につながる人が多いようですので、この点も考慮されて受講する講座を選定されることをおすすめします。

質問3 どの講座を受講するか考えましょう。自分にあった学習形態（通信・通学）、講座レベル（初歩から、中級からなど）などを考えましょう。

（解説）

どのような目的で、どのような内容の講座を受講するか決めましたら、最終的にどこのどの講座で能力開発を図るかを定める段階になります。通信か通学かは、ご自身の生活時間等を考慮し、続けられる形式を選ばれるとよいでしょう。

続いて、教育訓練施設と講座の選定ですが、各種情報誌や学校が配布しているパンフレット等の収集、インターネットによる学校・講座の特徴や評判などの情報の収集をおすすめします。また、教育訓練給付制度講座検索システム (http://www.kyufu.javada.or.jp/kensaku/T_M_kensaku) においても多様な情報を提供していますのでご活用下さい。

また、どの講座を受けるかは重要な要素です。「初歩から順に教えてくれてよかった」という声がある一方、「簡単な内容が多かった」という声があがることがあります。教育訓練給付制度指定講座は、目的とする資格等が掲げられており、また、講座を始められる前のご本人の知識等のレベルは様々に想定されています。初歩から始めて長期間かけて目標の資格のレベルに達することを目的とするものもあれば、ある程度の知識等を前提に中級程度から始まる講座もあります。ですから、その分野に係るご自身の知識等を考慮して講座を選定されませんと、難しすぎて修了できなかったり、逆に簡単すぎて無駄な時間を費やしたりすることになってしまう危険性があります。このあたりは、教育訓練施設の方にもよく確認していただくことをおすすめします。

教育訓練給付制度指定講座については、教育訓練施設において教育訓練の内容、目標資格、実績等について適切に公開するとともに、受講申込みに際しては、明示書で情報を提示することになっていますので、教育訓練施設に確認してください。

また、受講される講座を選定されるにあたり、教育訓練施設やその販売代理店等から勧誘が行われることがあります。中には勧誘方法が強引である等問題があるものがみられることがあります。厚生労働省といたしましては、こうした業者に対しては厳正に対処することとしておりますが、調査中のものや未発覚のものなどがあり得ますので、不適正な勧誘の手口等について情報提供をさせていただきます。講座の選定前に必ずご一読下さい (<http://www.kyufu.javada.or.jp/seido/pdf/kanyuchui.pdf>)。また、勧誘があった場合であっても、安易にその講座に決定することなく、その内容、料金形態等についてよく確認するようにし、疑問が残ったり、疑わしい発言があったり、受講したくないとお考えの際は、きっぱりとお断り下さい。

自己分析をしてみましょう

自己啓発を図って、ご自身の職業能力を向上したいという強い気持ちがあっても、どういう方面に向かっていけばよいかよくわからないという方も多いことと思います。そういった方は次のようなことを試してみましょう。

ステップ1 ご自身の職務経歴の棚卸しをしてみましょう。

「職務経歴の棚卸し」とは、まず、就職したときから年代順に、どのような会社のなんという部署に何年いてどういう仕事をしたか（学生時代のアルバイト等も含みます）、その中でどのような職業上の技能や資格を身につけたか、どのような研修を受けたか、成功したと思うこと、失敗したと思うこと、好きだった仕事の内容、嫌いだった仕事の内容等を細かく書き出すことです。就業期間が短い方は、学生時代の経験について、好きなこと嫌いなこと等をあげてみましょう。

ステップ2 自分について考えてみましょう。

自己理解のためには、家族や友人などの身近な方から見た自分像と自分が思う自分像を比べてみるというものがあります。家族に自分が子供の頃から好きだったこと、興味関心を持っていたこと、得意だったことについて聞いてみる、自分のよいところを10、悪いところを10、自分であげ、その後家族にもあげてもらって比べてみる等してみましょう。

ステップ3 ご自身の将来を思い描いてみましょう。

現在の年齢や家族構成等によっても違ってきますが、仕事に対する考え方、家族に対する考え方等からどのような働き方をしていきたいかを思い描いてみてください。

ステップ4 まとめてみましょう

ステップ1～3でいろいろと書き出した内容を基に、職業について「自分ができること」と「自分がやりたいこと・好きなこと」と「自分が得意なこと・向いていること」をまとめてみましょう。

(解説)

自己啓発を図って、ご自身の職業能力を向上したいという強い気持ちがあっても、どういう方面に向かっていけばよいかよくわからないという方も多いことと思います。また、いろいろな勧誘や広告があって、目移りしてしまい、何がむいているのか、何がしたいのか、何が必要なかわからなくなってしまうこともあるでしょう。非常に明確に目標が定まっている場合（介護関係の仕事に就きたいので関係資格を取得する、今の仕事に必要不可欠な能力を身につける、異動したい先が決まってい何が必要かはっきりわかっているなど）以外には、そういうこともあるものです。

職業能力の向上をはかって、将来にわたるキャリアアップを目指すことは、大変重要なことであり、そうした積極性をお持ちであることは、第一のハードルをクリアしています。あとは、どういう方向に向かっていくか決めるだけなのですから。

さて、どういう方向で職業能力の向上を図るかについては、複数の選択肢がありますが、一般に、職業生活では、「自分ができること」と「自分がやりたいこと・好きなこと」と「自分が得意なこと・向いていること」の交差点の仕事を行えることが望ましい状態の1つです。そうした機会を得られるようにすることを考えると、能力開発はこの「自分ができること」や「自分が得意なこと」の範囲を大きくして交差点を広げることを目指すことになります。ステップ4にまとめた内容をもとに、どのような点について能力開発していくか考えてみましょう。

この際、労働市場の状況や自分の置かれている状況を考慮することを忘れないようにしましょう。現在お仕事をされている場合は、その仕事（会社）を続けていく中で「自分ができること」を広げるとすれば、おのずとその会社の業種やそこにある職種等に範囲が限られますし、転職を考慮するのであれば、実際に労働市場状況がどうか、求人があるか、賃金や労働条件はどうかといったことも考慮して現実味のある範囲でどういった「自分ができること」を広げるかを考える必要が出てきます。独立・開業も同様に実際に独立・開業できるものであるか、実際に独立・開業した場合の収入の目途はたつかといったことも考慮することが必要です。現在、お仕事をされていない場合は、再就職に向けて、労働市場に現に求人があることが特に重要です。いずれにしても、こうした見通し無く「自分ができること」の範囲を広げても、結果としてご自身のキャリアアップには役立たなかったなどということになりかねません。世間の流行や、イメージに流されることなく、しっかりと自分と自分を取り巻く環境を見つめ直して見ましょう。

また、当然、能力開発の目的は、最終的に交差点の中にある仕事に就くことですから、きちんと資格を取得して自己PRできるようにするといったことはもちろん、在職中の方は、現在の仕事についてもきちんとこなして評価を得られるようにするとか、社内の人事制度や評価制度等について情報を収集する努力も必要になります。また、現在失業中で就職を目指すのであれば、上記の3つの項目に加えて「労働市場に仕事があること」が加わり、その4つの交差点を目指すことになりますから、ハローワーク等に行って職業相談やキャリアコンサルティングを受けるといったことも必要になります。

これらを踏まえて、どのような内容の講座を受けるか考えたら、質問3に戻って、講座を選択してみましょう。